# 発見！熊野町のエエところ。

シリーズ第11回

全国各地にある名所や名物、もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「エエところ」を紹介するコーナーです。今回は「熊野中学校の校歌」からのレポートです。

## 「三本の川」～vol.1 熊野中学校歌～

**安芸高原に満ちたろう～♪**
**光台場を照らすとき～♪**
**三つの流れの源に～♪**
**久遠の真理くまんかな～♪**

これは熊野中学校歌一番である。校歌は、その短い詩の中で熊野のエエところを表現している。今回は、まず熊野中学校歌にスポットをあてて、熊野のエエところを再発見！

“三つの流れ”とは三本の川のことであろう。平谷川・呉地川・石風呂川・道上川・土路川などの支流が呉市へ流れる二河川。三谷川・深原川・雲母川・海上川などの支流が瀬野川へ流れる熊野川。この二本は、普段から目にすることができる。分水嶺は、藤三スーパーの城之堀側の鶴が沢といわれている。その昔、鶴が舞い降りていたというのも趣深い。

はて？もう一本は何処にあるのだろうか。

熊野中学校の林保校長（58才）をお訪ねした。校長室に入ると、歴代校長の写真が飾ってある。見れば、校歌の作詞をされた岩崎喜一さんは二代目校長のようである。林校長は、ご用意くださった「筆の都熊野誌」など資料を広げながら、考えられるいろんな説をお話くださる。以前からはっきりとは解らない三つ目の川について興味を持っておられたそうである。前の句にある台場とは、砲台のある場所のこと。今も砲台の跡が残る榊山神社横の山を台場と呼んでいたことなど話してくださった。そこに立てば、三つの川が見えるのかな??さっそく中学校を後にして、台場に登ってみる。

台場からの風景

台場からの風景は、足元に木が生い茂り、当時とは町の様子も違うからであろうか、ちっとも川は見えない。ガックリと、さきほどいただいた資料に目を落とす。“堀登岐（ほっとぎ）の松林地帯を源とする泉川は郷原を経て呉市の広大川に合流する”とある。いざ！三つ目の川の探究に、堀登岐へ出発である。

県道を黒瀬方面へ向う上り坂手前、道上入口という看板を入り、道上奥へ2キロほど進むと堀登岐のふもとに到着する。道上川へと流れる小川の流れに添って、湿った山肌をドンドン登っていく。登るほどにますます細くなる頼りの小川は、いまにもとぎれそうである。あっ！なくなった…。あとの頼りは、愛犬のみ。遅れると振り返り気味に待ってくれる姿に先導されて、無事頂上に到着。頂上には、赤いペンキで塗られた古い境界石がある。ここから先は黒瀬町津江。この反対側の松林からも同じように小川が流れ出ているのだろうか。いったんふもとに降りて、今度は津江へと向う。

県道から道上入口へ

堀登岐東側のふもとに、小川を発見～!!登るほどに細くなるその小川は、確かに山肌を流れ出てくる。この小川が、資料にある泉川へと流れ出ているようである。

堀登岐から流れ出る小川

さて、確かに堀登岐の松林地帯を源とする小川は、津江から郷原を経て広大川へと合流するとして、果たして校歌で歌われている三つの流れと同じものをいうのだろうか。三つの流れとは、道かもしれないし、あるいは、単に目に見えた川を三本表現されているのかもしれない。ご存知の方いらっしゃいましたら教えて下さい。ただ、「三つの流れの源に～♪」というフレーズがなんとも心地良い。なつかしい熊野中学校歌を口ずさみながら、帰路に着く。

取材　伊藤真由美